

# 「模倣と創造」についての最近のやりとり

編集：やなぎさわかつひろ柳沢克央（信州・上田仮説サークル）

[katsu-y@coral.plala.or.jp](mailto:katsu-y@coral.plala.or.jp)

◆最近、「模倣と創造」について問題意識を持つ機会がありました。仮説社の竹内三郎さんとのメールのやりとりがあり、竹内さんからのメールを上田仮説サークルで紹介したいと思ったので、下記のようなメールを竹内さん宛に送りました。

-----Original Message-----

From: 柳沢 克央

Sent: Monday, June 5, 2017 10:02 PM

To: 竹内 三郎

Subject: お願い 信州・上田仮説サークル 柳沢克央より

竹内三郎さま

拝啓

信州の柳沢克央です。

先日は貴重な見解を多く含む下記のメールをありがとうございました。

2月のチョークアートの原稿を書く際、板倉著『模倣と創造』（仮説社）にざっと目を通しましたが、恥ずかしながら竹内さんのメールに書かれてあるところまで読み取れていませんでした。

6月10日（土）までに精読するつもりです。

お願いがあります。差し支えなければ、竹内さんの下記メールを上田仮説サークルで紹介させていただけないでしょうか。

6月10日（土）に臨時の上田仮説サークル例会が開かれます。

渡辺規夫さんの「ガリレオの力学建設（誰から何を学び何が独創的だったか）」に関する発表があり、このことについて興味を持った大阪の西村寿雄さんがはるばる来てくれる予定です。

私としては、この機会に模倣と創造についてさらに意見交流等を深めることができればと思っています。勝手なお願いとは存じますが、お返事をお待ちしています。よろしくお願いいたします。

敬具

◆6月6日(火)、竹内三郎さんから快諾のメールを頂きました。5月に私が竹内さんに宛てて書いたメールの主要な部分は下記のとおりです。これは、上田仮説サークルホームページ（管理人は渡辺規夫さん）の掲示板の内容のコピー&ペーストです。

-----Original Message-----

From: "柳沢 克央"

Sent: Thursday, May 18, 2017 4:53 PM

To: katsu-y@coral.plala.or.jp

Subject: Fwd: 模倣と創造（竹内三郎）

板倉聖宣著『模倣の時代（上）』（仮説社） - 柳沢克央

2017/05/03 (Wed) 18:14:22

いま、この本を読んでいてこの本の《ヘソ》（と思われる部分）が目に飛び込んできました。〈創造とは、模倣とはまったく違うものではなく、模倣が発展したものにすぎない〉（341 ペ）...なんとも味わい深い一文だと思うのですが、どうでしょうか。

Re: 板倉聖宣著『模倣の時代（上）』（仮説社） - 増田伸夫

2017/05/05 (Fri) 07:19:50

なるほど、〈創造とは何か〉を一言でいうと、そういうことになるということでしょうか。確かに、〈創造とは、模倣を通じて生まれてくるもの〉なのかもしれないですね。

Re: 板倉聖宣著『模倣の時代（上）』（仮説社） - 柳沢克央

2017/05/05 (Fri) 09:37:33

増田さんのおっしゃる通りだと思います。同じことを板倉さんも書いています。『模倣の時代（下）』にザッと目を通したところ、次の記述が発見できました。

「創造への飛躍をするためには、模倣することを欠かすことはできない。いや、誰もまだ模倣する価値を見出していないものを模倣するためには、自分でまったく新しいも

のを創造するのと同じくらいの創造性を必要とするのだ」(70 ペ) ///

「自分自身の研究の価値を正しく推しはかることができる人だけが、本当に創造的な研究を発展させることができるようになるのである」(404 ペ) ///

「自分の納得できないものは、誰がなんといおうと認めないような懐疑の精神とともに、自分が正しいと思ったら誰が何といおうとその研究を進めたり支持したりすることが大切なのである」(458 ペ) ///

「科学研究で一番難しいのは、そういう党派性に支配されずに研究を推進することなのである」(514 ペ) ///

「森林太郎は青山胤通に負けず劣らず欧米崇拝者で、〈日本の医学者には何の発見もできないもの〉と思いこんでいたのである。... (中略) ...それがかれらの党派性だったのである」(520 ペ) ///

「科学教育の目的は真の創造性を育てることにある以上、世間的な出世や名誉を越えていい仕事をした人々を掘り起こす仕事もないがしろにすることはできないのである」(543 ペ) ///

「単なる模倣ではすまない、真に創造的な解決を要する問題に対処することになったら、西洋文化を模倣するのにもっとも有能だった人々が最も無能にもなる」(560 ペ) ///

「創造の時代... (中略) ...には〈脚気予防には麦飯が効く〉といったような、エリートたちからするととんでもないような発想をする人たちの活躍が必要とされるのである。そういう時代には、エリートたちを含めて、もっとずっと多様な人々が大胆にその工夫を積み重ねることができるような教育の仕組み、研究組織を築き上げることが必要なのだ」(561 ペ)、

以上「読書メモー黄金連休特別篇ー」でした (笑)。

Re: 板倉聖宣著『模倣の時代 (上)』(仮説社) - 渡辺規夫

2017/05/09 (Tue) 09:31:16

『物理学史研究』を研究しています。板倉さんの「ガリレオはいかにしてその力学を建設したか」という論文は、まさにこの《模倣と創造》の問題を指摘しています。

Re: 板倉聖宣著『模倣の時代 (上)』(仮説社) - 柳沢克央

2017/05/14 (Sun) 20:31:10

サークルで渡辺さんのお話＝《模倣と創造》論を聴けるのを楽しみにしています。

◆「模倣と創造」に関する上田仮説サークル掲示板の内容は以上です。この掲示板の記載を読んだ竹内三郎さんのコメント(返事)は下記のとおりです。

柳沢克央さま

2017.5.9. 竹内三郎／仮説社

「模倣と創造」についてのおたより、ありがとうございました。

おっしゃることに、特に異議はありません。

サークルでの議論も、有益なことです。

ただし、ちょっと不思議な感じもしています。

というのは、「創造は模倣の発展したもの」というか、「模倣こそ創造の基礎であり、模倣しきれなかった部分を創造という」「模倣すべきものの発見こそ創造のはじまり」ということは板倉さんが仮説実験授業提唱のころからしきりに言われていたことだったからです。

そのことを法的にも訴えたのが学研対する「模倣裁判」で、その主張は板倉『模倣と創造』にまとめられています。

『模倣の時代』は私も好きです。とくに日本の近代化を「国を挙げての模倣推進の成果」として「明治時代を模倣の時代」ととらえ、しかも、「じつは現代の日本はまだ模倣の時代を脱していない」ことをも示唆していることは、医学以外の問題を考える上でも私には役立っています。

さらに、同書の後半にある「高等師範学校の寄宿舎では、昭和の戦争がはげしくなると食糧事情がとともひどくなるまで（軍隊はもとより、一般社会でも脚気病による死者はずっと前からごくまれになっていたのに）脚気病による死者が絶えなかった」という話が、ずーっと気になっています。

なぜ高師なのか？ それは偶然なのか？

私はそれが偶然ではないような気がしています。とって、それを確かめる調査などはしたことはありません。したがって、永遠の謎なのですが、「教育の世界が浮世離れしている証拠」のような気がしてなりません。

取り急ぎ、お礼かたがた思いつきを記してしまいました。以上。

◆ガリレオは誰の模倣をし、どのように創造的だったのか。大いに興味があります。6月10日（土）の渡辺規夫さんの研究発表会の中で「模倣と創造」に関する議論がさらに深められることを期待し、本稿を編集する手を休めます。2017年6月8日（木）〔篠ノ井高校のクラスマッチの日〕（柳沢克央）